

大項目評価（案）

第 1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

評価結果 A（順調に進んでいる）

評価結果

○救急医療において、中央市民病院では市全域の基幹病院として救急医療を継続し、西市民病院では、24 時間救急医療体制を 365 日体制に全面再開させたこと、小児・周産期医療^{*1}については、中央市民病院が総合周産期母子医療センター^{*2}の指定を受けたこと、また専門性の高い医療の提供の充実を図るため、中央市民病院では免疫血液内科を血液内科に再編し、西市民病院では 1 月より消化器外科を新設したこと、さらに地域医療連携に関しては、両病院とも紹介・逆紹介^{*3}の推進に努め、西市民病院においては 11 月に地域医療支援病院^{*4}の名称承認を受けるなど引き続き市民病院としての役割を果たしているとともに、すべての項目で年度計画を着実に実施している。

評価結果	S 特に評価すべき 進捗状況	A 順調に進んでいる	B おおむね順調に 進んでいる	C やや遅れている	D 大幅に遅れている
------	----------------------	---------------	-----------------------	--------------	---------------

※A=小項目において全ての項目の評価が 3～5

小項目評価の集計結果（評価した項目数）

項 目	評価 項目数	ウエイ トを考 慮した 項目数	小項目評価				
			5	4	3	2	1
1 市民病院としての役割の発揮	4	8		2	6		
2 専門性の高い医療の充実	3	5			5		
3 市民・患者と共に支える地域医療	3	4			4		
4 地域医療機関との連携協力の推進	3	5		2	3		
5 安全管理を徹底した医療の提供	4	5			5		
6 医療の標準化と診療情報の分析による質の改善及び向上	4	4			4		
7 臨床研究及び治験の推進	1	1			1		
合 計	22	32		4	28		

評価判断理由

①特筆すべき小項目評価

○小項目評価が 4（計画を上回って実施）の項目は次のとおりであった。（【 】は小項目評価の結果及びウェイト付け）

1-（1）救急医療【4・ウェイト2】

救急医療によく取り組まれていると思う。

4-（1）地域医療機関・保健機関・福祉機関との連携推進【4・ウェイト2】

西市民病院は昨年 11 月に地域医療支援病院になって、収益上の影響もでており、非常にうま

くいつていることを考慮して、評価を4とした。

②その他考慮すべき事項

1- (2) 小児・周産期医療【3・ウエイト2】

両病院ともにリスクの高い分娩を担っているのは、非常にいい。

6- (1) クリニカルパス*5の充実と活用【3】

クリニカルパスの数や適用率が増えてきていることは評価できる。

6- (2) DPC*6の活用【3】

DPC係数が伸びてきていることは評価できる。

○評価にあたっての意見、指摘等

- ・西市民病院の分娩件数が伸びている点は評価したい。
- ・市民病院だより（ニュース）は、非常に分かり易い内容である。市民にも、地域の医療機関にも、広く配布してほしい。
- ・薬剤システム不祥事の件は、個人の問題にしてしまうと良くはならない。仕組みとして、どうやって予防していくかを考えないといけない。
- ・西市民病院は少ない人材でよくがんばっている。特に薬剤師の病棟配置は評価できる。

*1 周産期医療

周産期とは妊娠満22週から生後7日未満までの期間をいう。この期間は、母体・胎児・新生児を総合的に管理して母と子の健康を守るために、産科・小児科双方から一貫して総合的に提供する医療のこと。

周産期医療を行う施設は、妊娠の異常、分娩期の異常、胎児・新生児の異常に適切に対処するために産科医と小児科医が協力し、その他の医療スタッフとの連携医療が必要な高度専門医療施設となっている。

市民病院では中央市民病院が、「総合周産期母子医療センター」の指定を受けている。

*2 総合周産期母子医療センター

新生児集中治療管理室（NICU）や母体・胎児集中治療管理室（MFICU）を備え、重い妊娠中毒症や切迫早産等危険性の高い妊婦と新生児に24時間体制で対応が可能な医療機関として、中央市民病院が平成25年4月に指定された。

*3 逆紹介率

当該医療機関からの他医療機関に患者を紹介した割合を示す指標。

*4 地域医療支援病院

医療機関相互の適切な機能分担及びかかりつけ医の支援を通じて、地域医療の確保を図る医療機関として都道府県知事から承認を受けた病院のこと。中央市民病院では、承認要件である紹介率40%以上かつ逆紹介率60%以上に達し、施設設備等の要件も満たし、平成21年12月に名称承認された。西市民病院についても平成25年11月に承認要件に達し、名称承認された。

*5 クリニカルパス

入院患者に対する治療の計画を示した日程表のことで、1つの治療や検査ごとに1つずつ作られる。クリニカルパスは、医療者用、患者用と2つ準備され、患者用クリニカルパスには、入院してからの食事や処置、検査・治療、そのための準備、退院後の説明等が日ごとに詳しく説明されている。

*6 DPC

従来の診療行為ごとに料金を計算する「出来高払い」診療報酬請求方式とは異なり、入院患者の医療資源を最も投入した病気とその病状・治療行為をもとに厚生労働省が定めた1日当たりの金額からなる包括評価部分（投薬、注射、処置、入院料等）と出来高評価部分（手術、麻酔、リハビリ、指導料等）を組み合わせて計算する請求方式のこと。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

評価結果 A (順調に進んでいる)

評価結果

○優れた人材を育成し、優れた専門職を確保するため、資格取得支援制度を継続したこと、法人本部に看護師確保担当を新設し看護師確保体制を強化したこと、夜勤専従手当（看護師）や夜間看護補助業務手当を創設したこと、また、医師を対象に研究休職制度や、医師及び医療技術職員を対象とした短期国内外派遣制度を構築し運用を開始したこと、中央市民病院ではリハビリテーション技術部にレジデント制度を導入し、チーム医療を実践できる人材の育成に取り組むなど、人材確保や育成、研修制度の充実と拡大を図っている。

評価結果	S 特に評価すべき 進捗状況	A 順調に進んでい る	B おおむね順調に 進んでいる	C やや遅れている	D 大幅に遅れてい る
------	----------------------	-------------------	-----------------------	--------------	-------------------

※A=小項目において全ての項目の評価が3～5

小項目評価の集計結果（評価した項目数）

項 目	評価 項目数	ウェイトを考 慮した 項目数	小項目評価				
			5	4	3	2	1
1 すべての職員がプロとして活躍し、やりがいがある病院	5	6			6		
2 人材の成長を促進する人事給与制度と育成プログラムの充実	2	3			3		
3 教育病院として医療に携わる人材の育成への貢献	2	2			2		
4 外部評価の活用及び監査制度の充実	2	2			2		
5 環境にやさしい病院づくり	1	1			1		
合 計	12	14			14		

評価判断理由

①特筆すべき小項目評価

特になし。

②その他考慮すべき事項

4- (1) 病院機能評価*1等の活用【3】

病院機能評価を適切に更新していることは評価できる。

○評価にあたっての意見、指摘等

- ・特定看護師の計画や新人看護師の1年間の研修努力義務については、計画的に進めること。
- ・奨学金も看護師確保のひとつのきっかけにはなるが、返したら終わりという意識がある。経済支援もあるが、教育力、看護力を高めるところをどう見せるかが、就職率、離職率にも影響する。学生は、そこに身を置いたら自分も成長できるという実感を大切にしている。
- ・看護師の離職防止にも、力を入れてほしい。
- ・ワークライフバランスをキャッチフレーズに、働きやすい環境づくりに取り組むことは大事だが、何をもって働きやすい環境とするのかは難しい。

- ホスピタリティの心を兼ね備えることが実現できればいい。それは温かさや豊かさなど、忙しさとは反対側の要素。つまり言葉を変えればゆとりであり、どう醸し出していくかが大切である。
- 中央市民病院の学術支援センターと臨床研修センターについては、学術支援という意味合いからは、ひとつのセンターにしてもいいのではないか。
- 看護大学との連携について、表現が変わっていない。何をもってどう評価するのが難しい。

*1 病院機能評価

公益財団法人日本医療機能評価機構が行う病院の評価事業。「患者の権利と安全の確保」、「診療の質の確保」、「看護の適切な提供」等の領域及び項目について、病院運営の専門家が評価する仕組みとなっている。受審の準備を進めることにより、医療の質の向上と効果的なサービスの改善が進むとともに、第三者の評価により病院の現状が客観的に把握でき、受審結果において改善すべき点が明確にされる等、病院運営全般にわたって効果がある。また、市民からの病院に対する信頼向上も期待できる。認定の有効期間は5年間となっており、中央市民病院及び西市民病院は、平成16年に認定を受け、その後、5年毎に更新認定を受けている。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

評価結果 A (順調に進んでいる)

評価結果

○中央市民病院では地域医療連携のさらなる推進や入院前検査センターの活用等による平均在院日数の短縮、手術件数及び手術単価の増加、外来化学療法^{*1}及び外来手術件数の増加、西市民病院では新たな診療報酬加算の取得、循環器内科の充実等及び患者数あたりの一般検査（CT、MRI等）件数の増加等による診療単価の上昇により医業収益が増加した。また、診療材料や医薬品の価格交渉など費用の削減に努めた結果、平成25年度決算においては、年度計画における法人全体の単年度資金収支の25年度目標（14.5億円黒字）を大幅に上回る28.1億円の黒字となった。また、経常収支比率^{*2}も中央市民病院では目標値100.4%に対して102.5%、西市民病院では目標値100.0%に対して104.3%となり、両病院とも目標を達成しているなど多くの項目で年度計画を上回って実施している。

評価結果	S 特に評価すべき 進捗状況	A 順調に進んでいる	B おおむね順調に 進んでいる	C やや遅れている	D 大幅に遅れている
------	----------------------	---------------	-----------------------	--------------	---------------

※A=小項目において全ての項目の評価が3～5

小項目評価の集計結果（評価した項目数）

項目	評価 項目数	ウェイトを考 慮した 項目数	小項目評価				
			5	4	3	2	1
1 資金収支の均衡	3	6	2		4		
2 質の高い経営ができる病院	3	4			4		
合計	6	10	2		8		

評価判断理由

①特筆すべき小項目評価

○小項目評価が5（計画を上回って実施）の項目は次のとおりであった。（【 】は小項目評価の結果及びウェイト付け）

1- (1) 安定した経営基盤の確立【5・ウェイト2】

大幅に収支が好転した点を考慮し、評価を5とした。

②その他考慮すべき事項

特になし。

○評価にあたっての意見、指摘等

- ・かつては、病院経営は赤字が当たり前だったが、過去の赤字体質を脱却し、安定的に黒字基調になっている点は評価したい。
- ・中央市民病院の入院診療単価は全国トップレベルとなっている。
- ・収支が良好なことは評価に値するが、比例して経費も増えていることはリスクになる。人件費など固定費は右肩上がりなので、経営の状況がいい間に、リスクマネジメントを考えないといけない。
- ・単に購買等のレベルで費用削減するのではなく、各診療科、現場レベルで費用削減につながるような取り組みをしっかりと実施する必要がある。

*1 化学療法

がんの治療方法の一つ。外科療法，放射線療法，化学療法の3種類があり，外科療法は手術で，放射線療法は放射線で，患部を直接治療するもの。これに対し，化学療法は，薬を使う治療法で，注射や内服によって，からだの中に薬を入れ，がんが増えるのを抑えたり，がんを破壊したりする治療のこと。近年は，入院せずに外来で化学療法を行うことが増えている。

*2 経常収支比率

経常収支比率(%)＝経常収益／経常費用×100 のこと。「経常収益」とは医療に関して発生した収入のほか，国，県及び市からの補助金及び運営費負担金，駐車場使用料等，経常的に発生した全ての収入のことで，「経常費用」とは医療に関して発生した費用のほか，人材確保にかかる費用をはじめ，経常的に発生した全ての費用のこと。

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためにとるべき措置

評価結果 A (順調に進んでいる)

評価結果

○中央市民病院の運用については、引き続きPFI^{*1}業務に関するモニタリングを定期的に行い、業務実施状況の確認や改善によって円滑な運営を図っている。医療産業都市^{*2}への寄与として、引き続き先端医療センター^{*3}と、連携会議や共同研究を行い、また、先端医療センター及び発生・再生科学総合研究センターが実施するiPS細胞^{*4}を使った臨床研究に協力・支援する体制を整えたこと、中央市民病院の周辺に開院した医療機関と定期的に連携会議を開催し、医療機能に応じて患者の紹介・逆紹介を行うとともに、設置が計画されている医療機関との連携について開院前より意見交換及び協議を行うなど、年度計画を着実に実施している。

評価結果	S 特に評価すべき 進捗状況	A 順調に進んでい る	B おおむね順調に 進んでいる	C やや遅れている	D 大幅に遅れてい る
------	----------------------	-------------------	-----------------------	--------------	-------------------

※A=小項目において全ての項目の評価が3~5

小項目評価の集計結果 (評価した項目数)

項 目	評価 項目数	ウエイ トを考 慮した 項目数	小項目評価				
			5	4	3	2	1
1 PFI手法による中央市民病院の運用	1	1			1		
2 医療産業都市への寄与	1	1			1		
合 計	2	2			2		

評価判断理由

①特筆すべき小項目評価

特になし

②その他考慮すべき事項

特になし

○評価にあたっての意見、指摘等

・

*1 PFI手法

平成11年に施行された「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」(PFI法)に基づいてなされるもので、民間の資金やノウハウを活用し、公共施設等の設計・建設・改修・更新や維持管理・運営を行う公共事業の手法のこと。

*2 医療産業都市

ポートアイランド2期を中心に、高度医療技術の研究・開発拠点を整備し、21世紀の成長産業である医療関連産業の集積を図ることで、①先端医療技術の提供による市民の健康と福祉の向上、②雇用の確保と神戸経済の活性化、③アジア諸国の医療水準の向上による国際貢献を目指すことを目的として進められており、先端医療センター、発生・再生科学総合研究センターをはじめ、中核施設等の整備が進められているとともに、医療関連企業の集積も進んでいる。

*3 先端医療センター

ポートアイランドにある12科60床の高度専門病院。運営は神戸市、兵庫県及び商工会議所等が出捐して設立した公益財団法人先端医療振興財団が行っている。

*4 i P S細胞

人間の皮膚などの体細胞に、極少数の遺伝子を導入し、数週間培養することによって、様々な組織や臓器の細胞に分化する能力と、ほぼ無限に増殖する能力をもつ多能性幹細胞に変化する。この細胞を、人工多能性幹細胞（i P S細胞）と呼ぶ。